

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

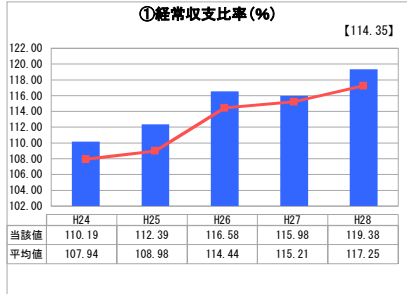
千葉県

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	77.42	83.93	2,640	

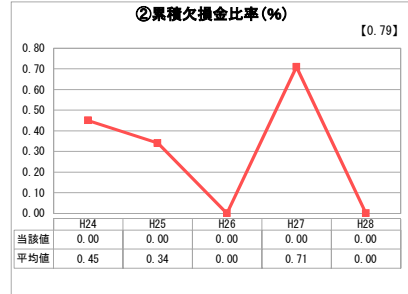
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,283,602	5,157.64	1,218.31
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,012,153	566.36	5,318.44

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】	平成28年度全国平均

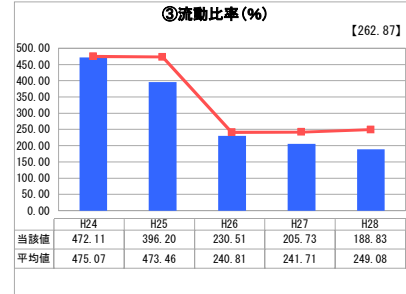
## 1. 経営の健全性・効率性



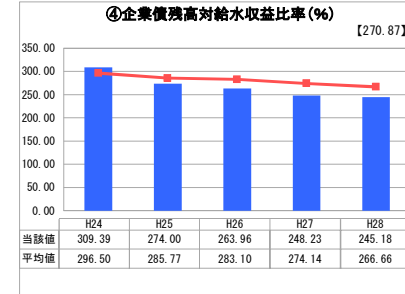
「経常損益」



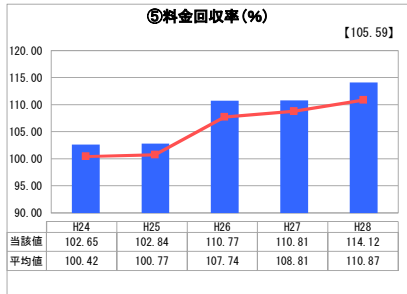
「累積欠損」



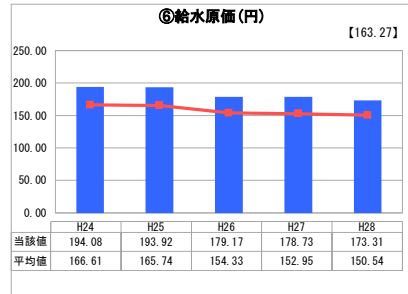
「支払能力」



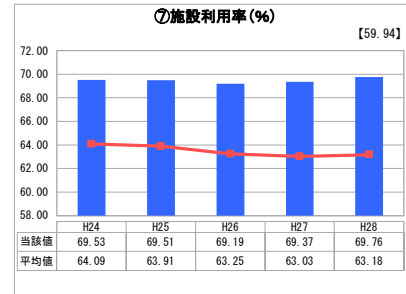
「債務残高」



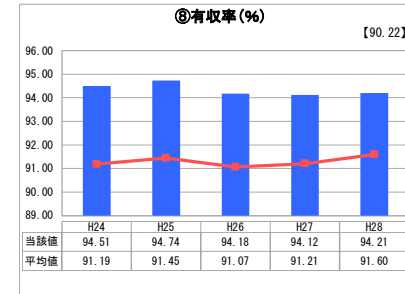
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

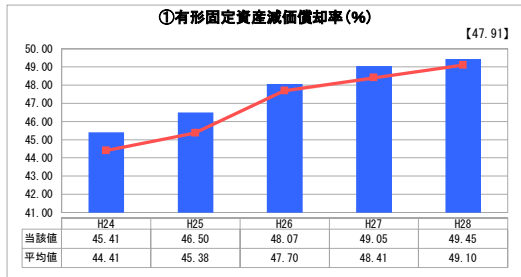


「施設の効率性」

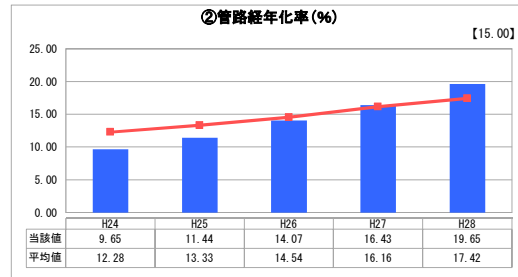


「供給した配水量の効率性」

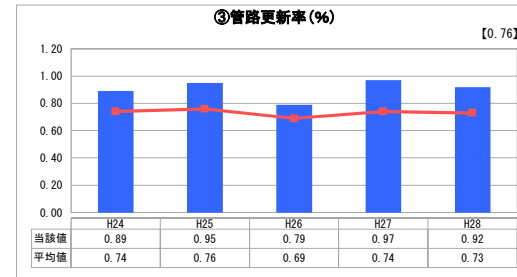
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性・効率性に関する指標については、類似団体平均値よりも良い値で推移している傾向にあり、収益全体についての健全性はある程度確保できています。  
 ⑥給水原価が類似団体平均値よりも高い理由としては、利根川下流や印旛沼等の水源の水質が良好とはいえない状況の中で、安心・安全な水を提供するために、浄水処理にかかるコストが類似団体よりも大きくなっているであろうことが挙げられます。

### 2. 老朽化の状況について

各指標の傾向として、類似団体と同様に①減価償却率・②管路経年化率が共に上昇基調にあり、施設の老朽化が進行しつつあります。  
 しかし、類似団体よりも更新のペースはやや早く進んでいる(③管路更新率参照)ため、この傾向を保持して、今後さらなる施設更新を進めてまいります。

## 全体総括

「経営の健全性・効率性」については、類似団体平均と比較しても良好な状態にあります。また、「老朽化の状況」については、全国の上水道事業が抱える課題と同様の傾向が見られるため、対策を講じてまいります。  
 そのためには、収益構造をさらに良好なものにして、設備投資を進めていく上での財務上の余力をいかに保持していくのかということ、上水道事業からの受益に対して水道料金等において負担する適正なバランスについて検討してまいります。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。